

平成25年度 精度管理調査報告

日本医師会/日臨技/広島県医師会サーベイ

検査科技師長 亀石 猛

当検査センターでは、ご利用いただいております先生方に、診断や治療の際に『安心、信頼』してお使いいただける検査データを日々お届けすべく、検査精度の維持・向上に努めております。日常の施設内での精度管理は勿論のこと、客観的評価をすべく各種の外部精度管理調査にも積極的に参加しております。

このたび、昨年度参加しました外部精度管理調査の結果が揃いましたので、主要な日本医師会、日本臨床衛生検査技師会および広島県医師会が主催する精度管理調査結果について、以下のとおりご報告させていただきます。

今後も引き続き先生方の信頼に応えるべく、検査精度の維持・向上に努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

第47回 日本医師会 臨床検査精度管理調査	平成25年度 日臨技 臨床検査精度管理調査	第41回 広島県 臨床検査精度管理調査
99.8	100.0(満点)	100.0(満点)
3,220施設参加	3,783施設参加	168施設参加

なお、広島県医師会の精度管理調査におきましては、参加168施設中、2施設のみ満点の1施設となり、最優秀施設として、2月23日に行われた第33回広島県臨床検査精度管理向上研修会の冒頭において、平松恵一県医師会会長より表彰状を授与されました。（※表紙写真、写真2を参照）

▼過去の調査結果

年度	日本医師会	日本臨床衛生 検査技師会(日臨技)	広島県医師会
平成24	99.0	100.0(満点)	99.1
23	99.8	100.0(満点)	99.1
22	100.0(満点)	100.0(満点)	100.0(満点)

■日臨技精度保証施設認証制度：

当検査センターは「精度保証認定施設」として登録されています。（写真1）



写真1

■広島県臨床検査精度管理調査：

当検査センターは「最優秀施設」として表彰状をいただきました。（写真2）

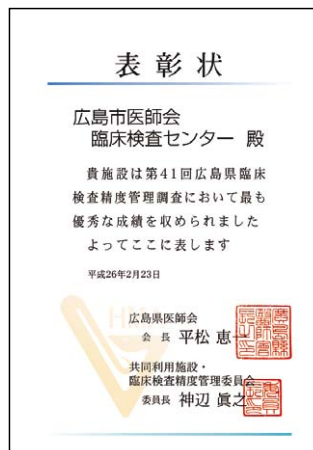


写真2

■精度管理に関する各部署の取り組みのご紹介

精度管理および日々の検査に対する検査部署の取り組みを、一部ご紹介させていただきます。

○自動・生化学係

自動・生化学係は、総蛋白やAST、ALTなどの生化学検査項目を、大型の自動分析機を用いて大量処理を行っている部署です。ほとんどの検査が、自動化、システム化されており、検査技師の手技によるところは少ない部署ですが、大量の検体と多種の検査項目を短時間で検査し報告を行っているところ、日常の検査機器のメンテナンスや試薬の管理、標準物質による検量線の校正、コントロール物質によるデータ管理を一つ誤ると、多検体多項目の大きな検査過誤につながってしまうため、非常に神経を使っています。

また、生化学検査項目は、日常診療に必要な検査項目であり、迅速性が求められることから、少しでも早く正確な検査データを臨床にお返しできるよう日々心がけて検査に取り組んでいます。
(岡崎博幸技師)

○血清係

血清係は、内分泌や感染症、腫瘍マーカーなどの検査項目のほか、血液型検査やクロスマッチなどの輸血関連検査を行っている部署です。自動化、システム化が行われている項目も多いですが、血液型検査などは用手法で行っています。

血液型検査やクロスマッチは、万が一間違った場合は、即、患者様に影響を及ぼす重要な検査であり、私たちも非常に神経を使う検査項目の一つです。そのため、定期的な手技のトレーニングはもとより、判定時には、必ず二人で確認（目合わせ）、検査結果についても読み合せを行うことを徹底しています。
(藤井ひとみ技師)

○血液係

血液係は、血液一般検査や凝固検査等を行っている部署です。自動・生化学係と同様、大量の検体を扱っており、自動化、システム化もされておりますが、血液像については、血球計算機で測定後、一定の基準を設け、検査技師が目視法（鏡検）によって精査を行っています。白血病などの血液疾患が疑われる場合には、臨床への至急報告は勿論のこと、担当医の先生の了解を得た上で、血液専門医によるアドバイスなどをレポート報告しています。血液像のような形態学は、技師の熟練と知識が必要であり、定期的なトレーニングはもちろんのこと、各種学会に参加し検査員のスキル向上に努めています。
(坂根美保子技師)

これからも常に臨床を意識し、迅速で正確な検査結果をお返しできるよう努めてまいりますので、引き続きよろしく申し上げます。